



《活動 10 周年を迎えました！》

「灯(ともしび)手に高く掲げて」

清田淳子（お茶の水女子大学）

「子どもランプ（LAMP）」の前身である「子どもラープ（LARP）」が誕生したのは 1999 年の秋でした。指折り数えてみれば、ランプは今年で 10 歳になります。そこで今回は、ランプが生まれたきっかけについて述べてみようと思います。

時代は遡って 1999 年の夏。

お茶大の日本語教育コースでは、子どもを対象とした実習が初めて行われました。集まってきたのは、メキシコ、韓国、中国、アメリカ、フィリピン出身の、幼稚園の年長さんから小学 6 年生までの男女合わせて 14 人の子どもたち。皆、日本に来て間もない子どもばかりで、日本語が話せないために友だちができず、学校では孤立感を深めていました。だからこそこの夏休みに、「一緒に遊ぼう！」と自分から声をかけられるようになることをめざし、それはにぎやかな 8 日間のクラスが始まりました。

そして、秋。

帰省先から戻ってきた院生のもとに、夏の実習で出会った子どもたちから次々と連絡が入りました。「こんどは学校の勉強を教えてください！」と。

こうして、子どもたちの声に押される形で、子どもランプが誕生しました。

とはいえ、当時は、「日本語さえできれば自然と学校の勉強はできるようになるはず」という思い込みや、「子どもに必要なのは日本語であって、母語なんて関係ない」という考えが大勢を占めていました。そのような中で、「学校の勉強がわかるようになりたい」という子どもの切実な思いと、子どもたちがそれぞれの母国で育んできた言葉や文化を日本語と同じくらい大切にしてほしいという私たちの願いとが相俟って、母語支援者と日本語支援者がペアになって教科学習支援を行うというスタイルが確立していきました。

以来、10 年。

2004 年には NPO 法人として組織を整え、会員もお茶大の学生に限ることなく、広く学生や社会人の参加を得てランプは成長して来ました。

が、しかし、日々の仕事や研究活動と、ランプの活動を上手に両立させることは決して簡単なことではありませんでした。支援を望む子どもは数多くいるのに支援者の手が足りなかったり、逆に、支援を希望する人は多いのに、子どもの数が減ってしまったこともありました。時にはトルコ語やタガログ語の母語支援者を求めて奔走し、時には活動資金を獲るために寄付金の申請書をひたすら書き続け、時には明日の学習支援で取り上げる国語教材文を徹夜で中国語に翻訳し、時には学校の三者面談に駆り出され、時には子どもの無断欠席に業を煮やしては家庭訪問を決行し……、誰もが右往左往の連続でした。それでも子どもたちの笑顔と仲間の存在に励まされ、気がついてみれば 10 年という月日を歩み続けてきました。

そして、今。

世界的な経済不況の荒波が子どもたちにも容赦なく襲いかかる中、彼らの心に灯（ランプ）をともし続けるために私たち大人に何ができるのか、一人の力ではできないことでも、ランプの仲間と一緒にしたら何ができるのかを、もういちど見つめ直していかななくてはならないと考えています。

《新刊☆中学校教科書・翻訳資料集》

『中学校国語教科書・翻訳資料集

—ポルトガル語版—』

『中学校国語教科書・翻訳資料集

—スペイン語版—』

中国語版に続き、ポルトガル語版、スペイン語版ができました。中学校の国語教科書『新しい国語』

（東京書籍）から、各学年 5 本程度の教材文を選び、著作権利用の認可を受けた上で、全文を翻訳しました。この翻訳教材を活用した学校や地域教室の子どもたちからは、「翻訳文を読んで自分は初めて本当のこと（内容）を知った」、「教科書に書いてあることがわかってうれしい」という感想をいただきました。



『中学校の英語・翻訳教科書-韓国語版-』

中国語版、ポルトガル語版に続き、韓国語版ができました。中学校の英語の教科書『NEW HORIZON』（東京書籍）の読み物部分の英語を日本語と韓国語に訳しました。英語、日本語、韓国語を対照させながら学習に取り組むことができます。この翻訳教材は、中学生はもちろんですが、地域に住む成人学習者にも利用されています。国際結婚をされたご家庭

では、「お互いの言葉を学ぶいい機会になった」という感想をいただきました。

◆教科書・翻訳資料集リスト

- ・中学校の英語・翻訳教科書 (各 500 円)
 - －中国語版－
 - －ポルトガル語版－
 - －韓国語版－
- ・中学校国語教科書・翻訳資料集 (各 1000 円)
 - －中国語版－
 - －ポルトガル語版－
 - －スペイン語版－

◆ご注文・お問い合わせ先

教材係： kodomolamp_kyouzai@yahoo.co.jp
(宇津木奈美子)

《支援者☆中学生のころに読んだ本》

『天龍八部』 高瑩（お茶大修士1年）

学生のころ忙しい勉強の合間に読んだ本の中で、一番面白くて印象深かったのは「天龍八部」というフィクションの大河小説でした。中国で何度もドラマ化され、物凄い人数のファンを持つこの小説には、宋時代の中国を舞台に、武芸とかかわる男の子三人を主人公に、数十人の登場人物の運命流転、そして真実の歴史が描かれています。武芸嫌いでありながら数々の絶技を身に付けてしまう雲南大理国の王子。素敵な人柄で莫大の人望を集めたが、突然敵国人の身だと暴露され、その真相を追いかけていく英雄男。仏教に深く帰依していたが、奇妙な事件に絡み人生が狂い始める少林寺の僧。三人の生き様から、愛情、民族、善悪というものの社会的哲学的な意味にまでも筆者が深く理解していることが感じ取れて、中学生の私には勉強にもなりました。その後歴史の授業も面白くなり、中国の詩や古典文学にも興味を持つようになってうれしかったです。

《子ども☆感想》

子どもランプに参加している岡村艳婷（岡村艶婷：おかむらえんてい）さんが次のような感想を寄せてくれました。

岡村艳婷(中2* 中国出身)

刚开始国语我什么都不懂。

在学校上国语课的时候，老师会让我们做练习，叫我们上去写答案。可是我却都不会做。因为我是第一次接触日本的国语，并且日语也都是不懂。所以总会到我的地方就停顿，老师了解我之后，就会跳过我。还有一次，每个人上去读书，同学忘了我不会读，大家都看着我，让我觉得很尴尬。

第一次来到 LAMP 的时候，这里的老师知道我的情况之后，就从最棘手的国语开始辅导我学习了。在这里，老师用中文把课文翻译出来，先帮我理清这篇课文要说些什么，然后再深入课文，用问题的形式帮我把这篇课文的内容理解清楚。在过后的几周，刚好迎来了考试。在考试上，我的得分虽然不高，但是我把基本的题目都写出来了。我觉得 LAMP 的这种做法不错，因为在学习日语的过程中，总会忘了点中文，翻译成中文，也可以当成是复习中文的一种方法，避免自己忘了中文。

我觉得来这里可以让我学到很多知识，相信在不久，日语再好一点，我的考试成绩也会更好的。而且，我觉得在学习日文的过程中，中文也要复习。总不能把日文学了中文就忘了。所以我想在日文提高的同时，也别忘了中文的学习，达到两方面的提升。

(原文のまま)

*執筆時。現在は中学3年生。

[日本語訳]

最初は、私は国語が何も分かりませんでした。学校では国語の授業の時に、先生がみんなに(問題を)練習させたり、回答を(黒板に)書かせたりします。でも、私はそれが全部できません。なぜなら、私にとって日本の国語は初めてですし、日本語もぜんぜんわからないからです。だから、いつも私の番になると、パスされます。ある日、みんなが順番の前に立って教科書を読むときがありました。私の番になったのですが、読めなかったのだから前に立っていました。みんなは私が日本語ができないことを忘れたように、じっと私を見ていました。そのときは、大変恥しかったです。

初めてランプに来たとき、この先生は私の状況を知ると、すぐに私にとって一番難しい科目の国語から学習支援を始めてくれました。ここでは、先生がテキストを中国語で翻訳してくれるので、それを使ってその文章が何を言っているかを勉強できました。それから、課題に沿って文章の具体的な内容を深くまで理解することができました。支援を受け始めて数週間後、ちょうど学校の試験が来ました。試験の点数はあまり高くなかったけど、基本的な問題は全部答えられました。LAMPのこのようなやり方はすごくいいと思います。日本語を習っていると、よく中国語を忘れそうになりますが、中国語の訳文があると、中国語の勉強にもなると思うからです。

LAMPでは、たくさんの知識を学べました。これから、日本語がもうちょっとよくなると、試験の成績もきっとよくなると信じています。また、日本語を学ぶのと同時に、中国語の勉強・復習も大切だと思います。だから、私は日本語ができるようになるのと一緒に、中国語の勉強も続けていきたいと思っています。(訳：劉雲霞)

《今年度の活動☆ワークショップ》

今年度は、「ランプ会員の相互学習」、「新メンバーの勧誘」、「外部団体との交流」という目的のもとで計6回のワークショップやオリエンテーションを行ないました。いずれも担当者が工夫や趣向を凝らし大盛会でした。

回	日時 場所	ワークショップ
第1回	5/20 (火) 18時~ お茶大	「ランプオリエンテーション」 ランプの目的や支援活動の紹介 岡崎眸先生(お茶大)講演 ディスカッション (参加者 20名)
第2回	6/17 (火) 18時~ お茶大	『教科・母語・日本語相互育成学習モデル』に基づいた母語先行学習の実践 母語先行学習支援 事例紹介 ワークシート作成体験 (参加者 13名)
第3回	7/15 (火) 18時~ お茶大	『教科・母語・日本語相互育成学習モデル』に基づいた学習支援の実践 日本語による先行学習 事例紹介 ワークシート作成体験 (参加者 15名)
第4回	10/21 (火) 18時~ お茶大	「ランプオリエンテーション」 ランプの目的や支援活動 外部参加の方の活動 ディスカッション (参加者 27名)
第5回	12/2 (火) 18時~ お茶大	「ランプまるごと体験 ~外国人の子どもの学習サポートって何するの?~」 ランプの目的や活動のQ&A 実際の支援の様子 (支援者の話・音声記録から) (参加者 19名)

第6回	12/16 (火) 18時~ お茶大	「チャレンジランプ支援! ~ランプの支援を一緒に作ろう~」 支援経験者の体験談 子ども中心の支援の事例 ディスカッション (参加者 19名)
第7回	2/26 (木) 18時~ 文京ビ ックセンター	「子どもランプ見学&ワークショップ -外国人の日本語指導者研修-」 ランプの目的や支援活動 学校や地域で行なった支援 (「外国人の日本語指導者研修」様の依頼で実施) (参加者 35名)

◆ワークショップ参加者の声

[第1回] 劉雲霞 (お茶大・修士2年)

2008年6月17日、私にとって、いいチャレンジでもあって、いい学びを得る一日でした。こども LAMP は「外国人の子どもの母語支援ってどうやるの?そんな疑問を一緒に考えて行きます」というテーマの「教科・母語・日本語相互育成モデル」に基づく母語先行学習実践紹介のワークショップを開催して、私はとても光栄なことに先輩の二人と一緒に司会を務めました。

ワークショップが始まる前、先輩と長い時間を持ち打ち合わせをしていましたが、始まると会場にいられた皆様の前に立って話すのは、やはり緊張が止まらなくて、たどたどしい日本語になってしまいました。一瞬、自分の下手な司会のせいで、LAMP の理念がちゃんと伝わらなかつたらとすごく心配になりました。しかし、参加者の方々が「母語先行学習支援の理論紹介」および「実践事例紹介」によく耳を傾けて聞いてくださっている様子を見て、皆さんは「内容重視型」なのだとなり、すごく感心しました。さらに、「実際にやってみる:グループディスカッション」という時間に、子どもが目の前にいるかのように、グループで課題と課題を出す狙いを考えたり、話し合いがすごく盛り上がりつつあり

るのを見ていて、みなさんはほんとうにそれらの困っている子どもたちのことを考えて、何かできたらいいなと思っているんだろうなと思いました。それで、私も自分の母語の中国語を生かしてそれらの子どもたちへの支援を続けていきたい気持ちがもっと強くなりました。

[第5回] 白田千晶 (お茶大・修士2年)

2つのステップでワークショップを行ないました。

ステップ1:楊さんと宇津木さんの体験を聞く

まず、「子ども中心の支援とはどのようなものか」という問いかけに関して、「子どもが今持っている最大限の力をどのようにしたら発揮できるか」、そして「どうしたらその能力を伸ばしていけるのか」についてお二人の体験談を聞きました。実際の支援のときの音声が流れると、みんなその支援の現場に引き込まれていきました。また、今回の話から、子どもの成長過程だけでなく、支援者も子どもとともに成長していく過程があることが分かりました。実際に支援してみることによって支援者自身も体験することであり、こども中心の支援を行なうためには支援者自身も一緒に成長していく必要があることを示してくれた事例でした。

ステップ2:楊さんと宇津木さんの話を踏まえて「デューク」を読む

次に、楊さんと宇津木さんの話を踏まえて短い物語を読み、筆者が伝えたいことをみんなで考えました。そして、その伝えたいことをどのように伝えたらよいかをグループでディスカッションしました。「デューク」は、自分の一番身近な存在であったペットのデュークが亡くなり、悲しんでいる主人公の



前に人間に姿を変えたデュークが表れ、一日を一緒に過ごすという内容です。テーマは「死」という重い内容ですが、物語は理解しやすく、実際に自分の体験と重ね合わせて考えることができたようでした。大人になれば自分と近い存在のものがいなくなるという経験をする機会が増えます。しかし、子どもであっても、買っていた金魚やインコ、猫や犬といった大切にしていたペットを失った経験があり、大人であれ、子どもであれ、常に人間にとって死は隣合わせにあるということを多くの参加者が感じ取ったようでした。「それをどのように伝えるのか」という方法については時間の関係であまり深い話まで聞くことができませんでした。個人的には「経験の共有」が思い浮かびました。支援と関連させて考えると、子どもと支援者がお互いに経験を話し、共有することによって、より理解が深まり、また信頼関係も築きやすくなるのではないかと思います。

[第6回] 松田歩実（お茶大・学部3年）

今回はお茶大を飛び出してのワークショップ。また参加者は母語話者がほとんどという珍しい状況で行われました。LAMPの支援形態は初めて聞くという方が多かったですが、実際の支援の映像や音声で、様子をわかっていただけではないかと思えます。参加者で実際に支援をしていらっしゃる方も多く、LAMPとは異なる支援の方法や悩みをお聞きすることができ勉強になりました。それぞれの方が話したいことをたくさん持っていらっしやったため時間が足りず、ワークショップ後もあちこちで話が盛り上がっていました。お子さんがいらっしやる方から「子どもの母語をのばしたいけれど、日本語が圧倒的に強い日本では難しく…今日同様な思いを持つ人と会えてよかった」という意見をいただき、今回このワークショップが出会いの場となることができ本当に嬉しく思いました。共通認識が少なく難しいと感じた点もありましたが、いろいろな考え方を知るためにも、LAMPの外でのワークショップをまた行いたいです。

《助成金をいただきました！》

今年、ランプの教科書作成事業・支援活動事業・および、ワークショップなどの支援者育成事業に対して、助成金をいただきました。別記会計報告のとおり大切に使用させていただきました。ありがとうございました。

キリン福祉財団 30万円
 独立行政法人福祉医療機構
 「長寿・子育て・障害者基金」 50万円
 オラクル有志の会ボランティア基金 50万円
 （三輪充子）

《賛助会員・正会員の募集》

今年度も「賛助会員」または「正会員」として子どもLAMPを支援して下さる方を募っております。

「賛助会員」とは、経済的にサポートすることによって間接的に支援に関わっていただく会員です。賛助会員には交流会や講演会などへのご招待やご優待を予定しております。尚、賛助会費はイベント時の子どもたちへの援助、留学生や学部生の合宿参加への資金補助等に大切に使用させていただきます。

「正会員」とは、直接支援をしていただく会員です。内容は、クラスの担当、教材作成、定例会、合宿、運営などです。いろいろな言語の話者、いろいろな立場の方を必要としています。

みなさまのご協力とご参加をお待ちしております。募集の詳細はHPにございます。賛助会員・正会員に関心を持たれた方は事務局へご連絡ください。

（原みずほ）

《平成20年度収支報告》

平成20年度子どもLAMP会計収支計算書			
平成20年4月1日から平成21年3月31日まで			
特定非営利活動法人子どもLAMP			
(円・単位)			
科目	金額		
収入の部			
1 会費・入会金収入			
入会金収入	0		
会費収入	12,500		
前年から繰越	373,624		
2 事業収入	110,620		
普及啓発事業収入			
3 補助金等収入			
地方公共団体補助金収入	500,000		
民間助成金収入	800,000		
4 寄付金収入	105,200		
5 基本金運用収入			
基本金利息収入	1,530		
当期収入合計		1,903,474	
収入合計			1,903,474
支出の部			
1 事業費			
学習支援事業	2,498		
調査研究事業	0		
教材開発事業	1,522,708		
支援者教育事業	58,952		
情報発信事業	15,215		
2 管理費			
役員報酬	0		
給料手当	0		
備品費	3,979		
光熱水費	0		
収入印紙代	1,000		
通信運搬費	61,740		
印刷製本費	0		
福利厚生費	4,410		
その他手数料	5,445		
雑費	6,751		
3 予備費	0		
当期支出合計		1,682,698	
当期収支差額			220,776
次期繰越収支差額			220,776

（宇津木奈美子・富田啓子・三輪充子）



子どもLAMP 連絡先
 〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
 お茶の水女子大学 日本語教育コース
 E-mail: info@kodomo-lamp.org
 ホームページ: http://kodomo-lamp.org
 発行: NPO 法人子どもLAMP
 編集: 原みずほ・三輪充子 デザイン: 金明浩
 ここに掲載されている記事や写真の無断使用を禁じます。